



恩師である神前禎教授のもとに集まった、令和5年の司法試験の8名の合格者たち。学習院での日々思いを巡らせながら、これから法曹を目指す皆さんに向けたメッセージや、学習院法科大学院の魅力、そして実際に行った司法試験対策などについて語り合ってもらいました。(実施日:2023年11月21日)

レベルの高い教授陣に 少人数で教わることのできる 理想的な環境

神前教授 皆さん、令和5年司法試験合格、本当におめでとうございます。まず、皆さんが法曹を目指したきっかけと本法科大学院に入学された理由を教えてください。

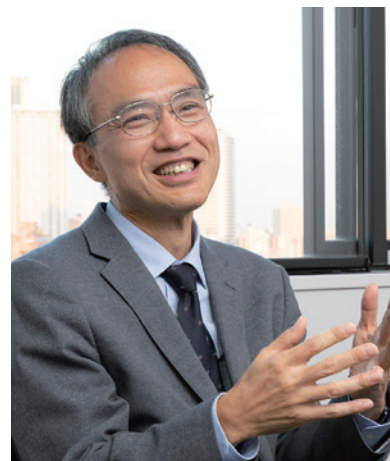
浜田 私は以前、他のロースクールを卒業し、一度司法試験の勉強を中断していましたが、再挑戦しようと本法科大学院への入学を決めました。大学院の選定にあたっては、教授陣が素晴らしく、少人数

で教わることのできる学習院法科大学院の環境なら確実に合格できると感じて、応募いたしました。

野村(和) 私も同じですね。もうひとつ、大学を中退して公認会計士の仕事をしていた私は、そもそもロースクールの受験資格すら認めてもらえないことが多かったんです。そんななかで、学習院大学は社会人経験を評価してくださり、快く受験の機会をいただけたので、入学を決意しました。

鈴木 僕は6年間ほど司法試験予備試験の合格を目指していましたが、論文試験に苦戦していました。その原因は基礎的

な法律の理解不足だと分析し、法律の理論の理解を徹底的に鍛えられる少人数



神前 禎 教授



浜田 恵里香

教育のロースクールを中心に受験。なかでも学習院法科大学院の非常にレベルの高い教授陣に惹かれました。授業料免除が得られたことも決め手のひとつです。

学会をリードする教授や 実務経験豊富な先生方による 身になる授業

神前教授 それでは、これまで受けてきたなかで印象深い授業や実際に役に立った授業は何ですか？

林田 当時教授だった小松達成先生の民事取引法実務です。基本書や条文のみで学んでいた民法の実務的なお話を聞くにつれ、法曹になりたい気持ちも強固になり、勉強のモチベーションも向上しました。

植村 僕は2つあって、ひとつ目は長谷部由起子先生の民事訴訟演習です。試験科目としての法律だけでなく、法律の



澤本 翔太

奥深さと学ぶ楽しさも知ることができました。もうひとつは、安村勉先生の刑事訴訟演習。厳しくも愛のある授業で、法律論のほか、答案の書き方を研究する必要性を実感しました。この2つの授業がなければ合格できなかったと感じています。

大野 学部の授業も担当されていた大橋洋一先生の公法訴訟実務ですね。授業の冒頭で、ご自身が大学院でより厳しい授業をする理由を「法曹は目の前にいる人を救わなければならない仕事で、法科大学院はそれを訓練する場だから」とおっしゃっていたことが、学部生の頃から学習院に在籍していた私にとっては印象的でした。

澤本 大橋先生は行政法Iの授業の最初に「法科大学院は5年に一度認証試験があるので、どの大学院に行っても教えることは変わらない」とおっしゃっていて、第一志望の大学院に合格できなかった私は慰められ、勇気も出ましたね。

神前教授 本学の教授陣は、基本書を執筆し学会をリードするほどの研究者や、経験豊富で教育熱心な実務家の先生ばかり。両方の先生方のお名前が挙がっていたことは嬉しいですね。

自習室や演習室の充実 そして結束し、 ともに成長していく学友たち

神前教授 次に大学が提供する施設、環境、サービスなどで良かったものを教えていただけますか？

澤本 通学に片道2時間はかかっていた私には、なんといっても駅から近いことが魅力でした。中央教育研究棟にある自習室もとても良かったです。図書館は学部生の利用も多いので、1人で集中できる環境を用意してもらえたことは、とてもありがたかったですね。

野村(和) 中央教育研究棟の演習室も良かったです。私はよく数人で司法試験の過去問を一齐に解き、答案を読み合ったり、採点実感を確認しながら話し合っ



植村 舜

たりしていました。

浜田 以前在籍していたロースクールに比べて学習院は一学年の人数が少なく、みんなで頑張ろう、一緒に成長していこうという気持ちで勉強できる環境がとても良かったです。

自分の立ち位置を 確認しながら 過去問の研究と基礎を徹底

神前教授 学習院の学生同士や教員とのつながりの深さが印象的でしたね。では、司法試験対策ではどんなことを重視しましたか？

林田 自分は2回目の受験で合格しましたが、1回目の受験後に、自分の答案には表現する力が圧倒的に不足していると感じたんです。そこで、予備校が主催する論文試験の答案練習会に参加したり、過去問の採点実感を分析したりして、答案の書き方を研究しました。特に採点



野村 琴音



野村 和比古

実感は司法試験審査員の先生方のご意見がいくつも書かれているので大切にしましたね。

植村 司法試験は相對試験なので、独りよがりな勉強になっていないか、わかった気になっていないかに常に気をつけていました。具体的には、聴講して他の学生と自分の理解度を比べたり、学内の友人が司法試験で何を重視しているかを意識して話したりしていましたね。ほかに、自分の立ち位置を知るために、模試は積極的に受けるようしていました。

大野 どんなに難しい論文の問題でも、基本的な条文知識や判例の知識があれば糸口をつかめるので、条文解釈や判例百選の読み込みを徹底していました。短答式試験は先生方のアドバイスどおり、生活の一部として解くことを早々に習慣づけていました。

鈴木 勉強の方向性を間違えないようにしました。まずはインターネットで調べ



林田 純

たり合格者に聞いたりして勉強方法を知り、合理的な計画を立て、先生方などに自分の答案を見せてフィードバックをもらって少しずつ方向性を修正していくことが重要だと感じています。

神前教授 それぞれのご意見が読者へのヒントになったのではないのでしょうか。多くの方におすすめできる方法は、過去問の出題の趣旨と採点実感を読むこと。試験で求められていることはよくわかっていても、意外とそれができていない学生は多いです。克服できればアドバンテージになりますので、勉強法に迷ったら、そこを出発点にしていただくといいと思います。

これまでの経験や 気づきから描く 自分らしい法曹像へ

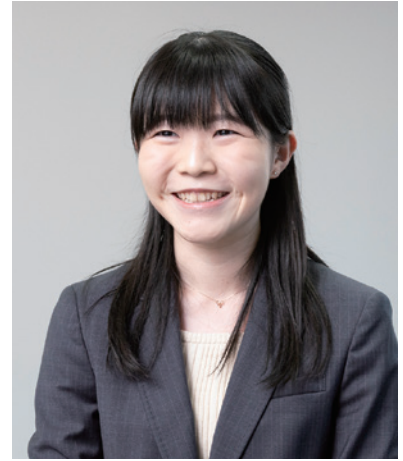
神前教授 それでは、皆さんの今後の目標を教えてください。

澤本 以前、私の姉が引越しをするときに、家を借りていた業者から少し多めに料金を取られてしまったんです。そのときに消費者庁や宅建の協会に電話しても具体的な解決方法が得られなかった経験から、法律の知識のない人々にも親身になって相談に乗ってあげられる弁護士が、私のなりたい弁護士像です。

浜田 私はロースクールを2回出て、今年、やっと試験に合格しました。時間がかかってもなんとか突破できた自分のしづとさを活かして、諦めの悪い弁護士になりたいですね。志望分野は未定ですが、息子がいますので、いい母としての背中を見せられる仕事をしていきたいです。

野村(琴) 私は内定をいただいた国内の大手渉外法律事務所で、独占禁止法の分野に携わりたいです。企業のM&Aで経営戦略を立てる際、必ず壁となって立ちはだかるのが各国の独占禁止法なんです。そこで、クライアントの希望を汲み取ったうえで、依頼者の目標実現をサポートできる弁護士になりたいですね。

林田 司法過疎地など、必要であるにも



大野 亜優

かかわらず経済的、場所的理由で司法の支援を得られない方々に寄り添えるような弁護士になりたいです。また、検察官や裁判官にも興味があるので、司法修習を通じて進む道を決めたいと思います。

ベースの知識をインプットし、 入学後は少人数制の利点を 最大限に活用

神前教授 最後に、これからロースクールで学ぶ後輩にアドバイスをお願いします。また、入学前にやっておいてよかったこと、やっておけばよかったと思うことがあればお話しいただけますか？

大野 在学期間中は既修者に追いつかなければという焦りや、司法試験合格に何が足りないのかという不安との闘いでしたが、今思えば、目標に向かって一生懸命になれた幸せな期間だったのかもしれない。皆さんも自分の体調や精神



鈴木 啓士

面をいたわりながら、一歩ずつ頑張っていただけだと思います。

野村(琴) 私は学習院の学部からジャンプアップ入試で入学しましたが、入試対策もままならず、最初の半年ほどは知識が乏しく授業についていけなかったことを深く後悔しています。ですから、簡単なものでいいので入学前に司法試験の全科目の基礎的な本を一通り読んでおくことをおすすめします。また、環境が整っていても司法試験合格まで1人で勉強し続けることは非常に苦しいです。わからないことはすぐに先生に質問し、仲間を見つけて自分から率先していい環境を

作り、全員で受かるという気持ちで取り組むことが大事だと思います。

野村(和) たしかに私の場合は、入学前に各科目の薄めの本を3、4回繰り返し読んでおいたことが授業を吸収できる土台になったと感じます。入学後は1年目から全力を尽くし、無事予備試験に合格しました。ただ、司法試験は所詮ペーパーテスト。重要なのは、合格後にどのような法曹になるかなので、実務家の先生の体験談をたくさん聞いて、自分の将来像を考えながら過ごす楽しいロースクール生活になると思います。

植村 先生方は卒業後もオフィスアワー

を使うと快く質問に答えてくださいますので、先生やOBの方とも密に連携して試験対策をしていくといいですね。

鈴木 僕は今年から始まった在学中受験資格を得て司法試験に合格しましたが、授業と並行して司法試験対策を進めることは、困難を極めました。在学中受験をされる方は、授業に使う時間と司法試験対策に充てる時間を正確に把握して独学の計画をしっかりと立てて欲しいですね。

神前教授 非常に具体的なアドバイスと貴重なご意見をありがとうございました。

MEMBERS

司会進行

神前 禎教授(法務研究科長)

金沢大学法学部助教授、学習院大学法学部助教授、同教授を経て、2004年より学習院大学法科大学院教授。日本私法学会、日本国際法学会、日本国際私法学会に所属。

大野 亜優 2022年3月学習院大学法科大学院修了(法学未修者コース)。2023年司法試験合格。

植村 舜 2021年3月学習院大学法科大学院修了(法学既修者コース)。2023年司法試験合格。

林田 純 2022年3月学習院大学法科大学院修了(法学既修者コース)。2023年司法試験合格。

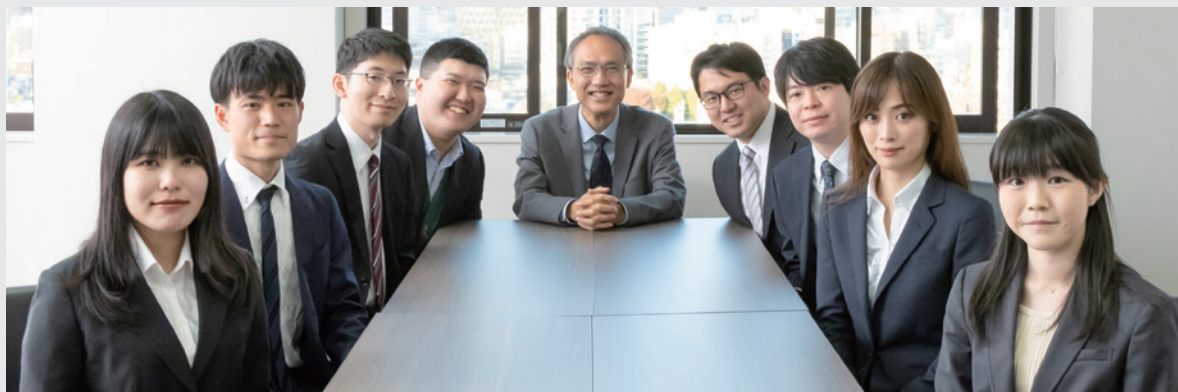
野村 和比古 2023年3月学習院大学法科大学院修了(法学既修者コース)。2023年司法試験合格。

野村 琴音 2023年3月学習院大学法科大学院修了(法学既修者コース)。2023年司法試験合格。

浜田 恵里香 2023年3月学習院大学法科大学院修了(法学既修者コース)。2023年司法試験合格。

澤本 翔太 在学中受験(法学既修者コース)。2023年司法試験合格。

鈴木 啓士 在学中受験(法学既修者コース)。2023年司法試験合格。



学習院大学 法科大学院

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

法務研究科事務室

TEL:03-5992-1732 [月~金]9:00-16:30 E-mail:laws-off@gakushuin.ac.jp

いつでも
オープンキャンパス



学習院大学
法科大学院HP



合格者座談会

令和4年の司法試験で合格を勝ち取った3名の法科大学院修了生が神前教授のもとに集まり、法曹を目指したきっかけから学習院法科大学院の良さ、そして司法試験の合格の秘訣などについて、これから法曹を目指す皆さんに向けて語っていただきました。(実施日：2022年10月12日)

法律と関わった縁を機に飛び込んだ 法曹の世界と学習院法科大学院

神前教授 令和4年司法試験に合格された皆さん、本当におめでとうございます。では初めに、皆さんが法曹を目指したきっかけと、なぜ本法科大学院に入学されたのかを教えてくださいいただけますか？

佐々木 社会に役立つ仕事がしたくて、学部時代は公務員試験の合格を目指していました。その試験科目の学習を通じて法律に触れるうち、すべての人が法律で規律されていると改めて認識したんです。そこで、法曹として働けば法律の知識を活かして人の実生活に直接関わり、より自分が社会の役に立てると思いました。そこから法曹を目指し始め、大学卒業後にはほかの法科大学院に通ったものの、司法試験に失敗。その後、友人たちの勧めで参加した学習院大学法科大学院の説明会で、少人数制で先生との距離も近い学習院のスタイルを知り、自分に合っていると感じました。それに、素晴らしい学習環境で自分が学んでいるイメージも湧きました。特待入試で学費が免除されたことも、経済的な不安なく勉強に集中できてよかったですね。

早川 高校生のときに模擬裁判で裁判官役を経験したことをきっかけに法曹を意識し始め、

法学部に進学しました。就職するにあたっては幼少期から格闘技を続けてきたこともあり、体力を活かせる仕事に就こうか迷いましたが、知的な職業への憧れも強く、一番身近な法曹を目指すことにしました。ロースクール選びは先生方に質問しやすく、親身になって相談に乗っていただけるかどうかを一番重視しました。また、学部と同じ大学へ進学する道もありましたが、多様な視点を獲得するため、新しい環境を求めて、学習院に入学を決めました。

岡野 私は2020年3月まで証券会社で働き、市場部門で証券化商品の組成などを担当していました。この仕事には法律が深く関わっています。何度も弁護士さんと仕事をするうちに、ブロックチェーンなどによって金融の仕組みが革新されていく今、経験を活かしながら今度は自分が弁護士として金融に関わってみるのも面白いと思ったんです。これまでの道とは違うチャレンジでしたが、残り何年働けるかといったことはあまり考えていませんでした。ただ、学習院の法科大学院でそれまでいろんな著作物でお名前を拝見したり、業界団体の勉強会などでお話を伺ったことのある、非常に高名な先生方に直接教えていただけることが楽しみでした。少人数制のため、双方向の授業にも期待していましたね。



神前 禎 教授

力をつけるために予習を欠かさず 法律の知識の基礎力を身につける

神前教授 双方向の授業は期待通りでしたか？特に印象に残っている授業は何でしょうか？

岡野 橋本先生の労働法の授業です。昨年はオンライン授業が多いなか、一学期と二学期に受けた授業はいずれも対面で、オンライン参加の学生も含めて履修者は4人だけでした。対面だと非常に質問しやすく「このように考えてもいいですか」といった疑問もぶつけられたので、非常に充実した授業を受けられたと感謝しています。

神前教授 予習は「授業で恥をかかないようにする」ためではなく、「自分が実力をつける」ためしておくもの。岡野さんのように、自分の考えをベースに教授と対話するくらいの気持ちで予習してから授業を“使う”つもりで受けていただくと、自然と自分の頭と言葉で文章表現できる実力がついていくと思います。

佐々木 私は既修者コースで入学しましたが、まだまだ基礎的なことに不安を感じていました。そのため、基本書の内容から教えていただいた民法の竹中先生や民事訴訟法の長谷部先生の授業はありがたかったです。ほかにも、履修者2人で受講した知的財産法の横山先生の授業では、先生からの質問に答えるためにも



絶対に予習は欠かせないという緊迫感が予習を習慣づけ、ほかの科目を受けるときにも力になりましたね。

早川 私は入学直後に初めて受けた野坂先生(当時)の憲法の講義ですね。事前にしっかりと予習をしていったにもかかわらず、先生の話が派生的な内容になったとたんに理解できなくなってしまったんです。そのとき「ロースクールってこういう場所なんだな」と、その多岐にわたる専門性に深く感じ入ったことを覚えています。ほかにも、基本的な法的三段論法をご教授いただいた松元先生(当時)の会社法や、法文書の書き方を徹底的に鍛えてくださった刑事訴訟法の安村先生の授業によって、確実に合格への実力がついたと思います。

充実の学習環境と授業 —— 自習室に図書館、法実務講座

神前教授 では、本法科大学院が提供している環境やサービスで特にご自身でよく活用されたり、役立ったと感じたものはありますか？

早川 2年のときに受けた法実務講座が最も役立ちました。自分の学習の進度に合わせて、基礎から司法試験の過去問演習まで様々なテーマで、現役で活躍されている実務家の先生方から直接ご指導いただけたことは貴重



岡野 能和

でした。ほかにも、大学院修了後も自習室を使わせていただけたことも大きかったですね。

佐々木 家で勉強することが苦手な私も、学内に多くの自習スペースがある学習院の環境は大変嬉しいものでした。特に在学中、自習室は自分専用の机・ロッカーと棚が割り当てられるため資料も多く持ち込むことができ、とても快適でした。集中が切れたときは法経図書センターの書庫に移動すれば、気持ちを切り替えて勉強を続けられましたね。法経図書センターは蔵書も豊富で、探している本が見つからないということは一度もありませんでした。

岡野 私も法経図書センターはよく利用していました。開架部分には先生方が指定した図書が置かれ、手軽に調べものができるよう配慮されているのがよかったです。また、判例を調べる時はオンラインデータベースの判例秘書を、用語検索を行う場合はTKCローブライリーを活用していました。

神前教授 東2号館の法経図書センターは学習院大学の誇れる施設のひとつです。また、法実務講座について補足すると、法曹として活躍する弁護士を中心とした当法科大学院修了生が講師を務めて後輩指導をしてくださっている正課外の取り組みです。

使える知識を効率よくインプットし 司法試験を熟知した教授の教えに 忠実に

神前教授 司法試験の対策としてはどんなことに力を入れましたか？

佐々木 判例や基本書に書いてあることのすべてを暗記することはできなかったのですが、条文の趣旨を自分で考えられるようにしておき、試験中でも条文を見ればだいたいの趣旨を自分の言葉で書けるようにしました。あとは、自分の手で実際に論文を書くことを重視しました。前年の



早川 大也

司法試験対策では、実際に論文を書く時間をあまり設けておらず、書く力が足りなかったと感じたので、自分の手、自分の言葉で論文を書く訓練を重ねましたね。

神前教授 司法試験は、適切な時間配分や長時間書き続ける腕力なども必要な試験なので、何度も繰り返して身につけるのが一番です。また、司法試験の会場で参照できるのは条文と自分の頭だけなので、条文とその趣旨を結びつけて記憶の中に留めておくことは、非常に理にかなっていたと思います。

早川 一番重視したのは「答案に、知識と理解を正確に表現できるか」という点です。幸い基本書を読むことは好きでした。しかし、漠然と読むだけでは問題は解けないので、常に問題の所在を意識し、使える知識と正確な理解のインプットを心がけていました。さらに答案では、法的三段論法を展開することを徹底し、論理的な繋がりが把握できる文章を書くことを意識しました。その甲斐あって、多少は、合格答案が書けるようになったと思います。

岡野 試験対策で特にこれというのはないのですが、余計なことは考えず、多くの法曹を育てられてきた先生方の言われたことをその通りできるようにしてきました。法的三段論法で答案を書くことをはじめ、先生たちがおっしゃったことや、試験の採点コメントを必ずノートにとって

合格者座談会



佐々木 亮

おき、それを実現できるようにひたすら練習してきました。

神前教授 教授たちは学生の皆さんそれぞれの現況と、どこまでどのように学べば合格に達するかをよく知っています。この法科大学院は全体の人数も少ないのでその道程を丁寧に教えることができますし、その通りに実際に自分で行動しさえすれば、合格に至るでしょう。きちんとした積み重ねが合格に繋がり、そして合格後も、司法研修所に入ってから知識を身につけることは続いていきます。

自分の本来の目的を見失わず 課題をカバーできる習慣をつける

神前教授 司法試験までの長い期間勉強し続けるために、やる気を維持することは大変だったと思います。何か工夫されたことはありましたか？

早川 私の一番の課題が、勉強を継続することでしたから、やる気をキープするために、勉強場所を定期的に変えるという工夫をしていました。というのも2時間ぐらい勉強するとすぐ飽きてしまうんです。そこで、2時間おきに、自習室、法経図書センター、演習室、カフェ、外の椅子、を転々としながら勉強することで、なんとか1日のやる気を保つように努力はしていました。ただ、遊びたい誘惑に負けてしまうときもありました。そのときは一切勉強せず、好きなゲームだけを3日間くらい集中してやっていました。そうすると、途中で「このままだとまずいな」と気付いて、また

勉強のやる気が出ていました。それが自分では一番効率がよかったです。

佐々木 司法試験という大きなゴールに向けて、短期的な目標をいくつも作ってクリアしていくようにしました。具体的には、毎年9月、12月、3月に実施されるTKCの実力確認テストを受け、できなかった科目を重点的に勉強していたんです。途中で挫折しなかったのは、試験がうまくいかなかったときも「次に同じミスをしなればいい」と必要以上に自分を追い込まず、リラックスして勉強に取り組んでいたからだと思います。

岡野 今まで動いてきた経験の中での喜びは、例えば新しい商品の組成に成功して、それがうまく販売できたときに味わっていました。今度は弁護士の立場でも、また新たな商品の開発や販売に関わっていけたら楽しいぞ、という思いが一番のモチベーションでしたね。

神前教授 皆さん、きちんと自分なりのパターンやビジョンを持って我慢強く勉強してくださいましたね。私も学生には「モチベーションに頼ることなく、淡々と勉強する仕組みや習慣を自分のパターンとして持ってほしい」と伝えてきました。人間は弱いものなので、やる気のアップ・ダウンに行動が左右されてしまいがちですが、やる気が起きなくても「最低限これは勉強するぞ」といった習慣が身につけていることが理想的ですね。

基本書通読で基礎を作り、予習、復習の徹底で授業を最大限に活用

神前教授 ロースクールで今後学んでいく後輩にアドバイスをお願いします。ロースクールに入学してからはもちろん、入学前にしておくことよいことや心がまえなどをお聞かせいただけますか？

佐々木 ご自身の興味のある科目からでよいので事前に一通り各科目の基本書を読んでおかれることをお勧めします。ある程度理解した上で先生方の授業を聞くと、理解の度合いが非常に深まるからです。ロースクール入学後も、授業を最大限に活かすために予習を重点的に進めるとよいと思います。

早川 将棋を指すにも駒の動かし方を知る必要があるように、事前に入門書を読んで最低限の知識とルールを頭に入れておくとその後がスムーズです。まず、法解釈の入門書を読んだ上で、各科目の入門書を読みながら科目特性を知ると効率的だと思います。入学後は、わからない点をピックアップして先生に聞けるようにしておくとか何倍も効果的に復習できると思います。また、司法試験の採点対象は、当日に書いた答案なので、日々の起案練習も怠らずに頑張してほしいと思います。

岡野 私も入学前、フルタイムで仕事をしている合間の休日や夏休み、通勤電車の行き帰りに基本書を読んでいましたし、それは必要なこと





だったと思います。法律に親しむという意味で、実定法だけでなく法理学などから読んでみるのも面白いですよ。私も学生時代、東大の碧海純一先生の著書『新版 法哲学概論』を読んですごく感激し、法律への関心が一層高まりました。また、お2人もおっしゃるように、一番大事なのは授業です。注意深く先生方がおっしゃることを聞き、それを活かす。そして自分で練習を重ねることが合格への近道ではないかなと思います。

神前教授 入学までに自分の不得意科目も含めてまんべんなく知識を得ておくということですね。そのほかにも、未修、既修にかかわらず、入学後に毎日長時間勉強できるだけの集中力や体力などの心身の準備を心がけていただくとよいですね。そして経済的な問題なども入学前に解決しておき、司法試験合格まで勉強に集中できるよう準備できるとよいですね。

それぞれが思い描く理想の法曹を目指し、ここからまた新たな一步を踏み出す

神前教授 最後に、皆さんの今後の目標を教えてください。

岡野 ひとつは弁護士として何らかの形で金融に関わること。もうひとつは、法曹としてボランティアに参加し、社会貢献することが目標です。

佐々木 もともと映画や音楽、漫画などのエンターテインメントの分野に興味がある

ので、知的財産権、特に著作権を主に扱うような弁護士になりたいと思っています。ただ、そのほかにも選択肢を狭めずに興味のあることはどんどんチャレンジしていき、法律の専門家として依頼者の希望に沿いつつも、無理なものは無理とハッキリ言えて的確なアドバイスができる弁護士になりたいですね。

早川 多角的な視点で深く物事を捉え、依頼者等の専門分野を尊重できるような弁護士になりたいです。また、自己成長も続けたいので、法律分野に限らず、英語や中国語などの語学にも挑戦していきたいと考えています。もっとも、具体的な目標は、修習中にじっくり考えながら、決めたいと思っています。

神前教授 三者三様の素晴らしい未来ですね。そのなかで、皆さんが法曹として活躍されることを祈っております。本日はお忙しいなかありがとうございました。

MEMBERS

司会進行

神前 禎(法務研究科長)

金沢大学法学部助教授、学習院大学法学部助教授、同教授を経て、2004年より学習院大学法科大学院教授。日本私法学会、日本国際法学会、日本国際私法学会に所属。



早川 大也

日本大学法学部法律学科出身。
2021年3月学習院大学法科大学院
修了(法学既修者コース)。
2022年司法試験合格。

佐々木 亮

立教大学経済学部経済学科出身。
2021年3月学習院大学法科大学院
修了(法学既修者コース)。
2022年司法試験合格。

岡野 能和

京都大学法学部出身。
2022年3月学習院大学法科大学院
修了(法学既修者コース)。
2022年司法試験合格。

合格者座談会

恩師である神前禎教授のもとに一堂に会した、令和3年司法試験の合格者たち。法曹を目指す皆さんに向けて、合格した今思い出される学習院での日々や合格の秘訣について、法科大学院修了生の4名に語りあってもらいました。(実施日:2021年10月19日)

それぞれのターニングポイントを経て 学習院大学法科大学院へ

神前教授 令和3年司法試験に合格された皆さん、本当におめでとうございます。さっそくですが、法曹を目指したきっかけと、本法科大学院との出会いからお伺いしていきます。

R.M. 最初のきっかけは、高校2年生のときに起きた「割り箸事件」です。被害者は知り合いの息子さんで、その事件をリアルタイムに肌で感じていました。同時に、医師の過失の有無を問う訴訟も起こしていたため、法律の観点でも非常に記憶に残っています。大学では生命倫理を学びましたが、祖母の死をきっかけに具体的な行動の必要性を感じ、3年次の秋には、専門的で実際に行動できる法律家に興味を持ちました。卒業後は、並行して取得した看護師資格で数年働きましたが、やはり弁護士の道を目指そうと、学習院大学のロースクールに入学しました。決め手は、学費免除の制度と、司法試験の基本書を書かれている教授が多く在籍していたことですね。

星野 辛い状況にある人を助けたり、人に寄り添ったりする仕事がしたくて、高校卒業後に2年ほど働きました。しかし、その環境は厳しく、理不尽に思うことも多い職場だったんです。そこで再度進路を考えたとき、弁護士に

なって同じ思いをしている人を助けたい、そして、最難関の試験を突破して、自分の生き方を変えたいと思いました。それから他大学の法学部に入學し、在学中は予備試験も受けていましたが、それを断念してロースクールを受けることに。そのなかでも学習院は、説明会での在學生と先生の関係がとても良く、学校全体の雰囲気と少人数制が自分に合っていると感じたので、絶対ここに来ようと思いました。

宮田 他大学の法学部法律学科に入学しましたが、当初は「弁護士は事後処理をする仕事」というイメージもあり、それほどなりたいたいとは思っていませんでした。しかし、在学中に参加した弁護士の方による倒産事件の講演会で、「倒産の事後処理も確かに大事だけれど、それ以前に予防できることもある」と聞き、それまでのイメージが一変。それならば主体的に仕事ができるのではと思い、弁護士を目指すことにしました。その後、別のロースクールに通いましたが、司法試験に失敗し、アルバイトでお金をためて、授業料の免除を受けられる新たなロースクールを探していました。調べていくうちに、学習院には有名な先生方が多数いらっしゃるうえに、自習室などの環境の良さもあり、入学しようと決意しました。

安田 僕のきっかけはシンプルで、高校のときに見たドラマの検事がかっこよかったから



神前 禎 教授

です。被害者の立場に立って真実を追求する姿にあこがれていると、よく友人や学校の先生に話しました。あるとき、彼らに勧められるままに実際の裁判を傍聴したとき、その迫力に圧倒され、検察官になろうと思いました。それから学習院の法学部法学科に進学。学部3年次に受けた、本大学院の教授でもある鎮目征樹先生の刑法ゼミで刑法の奥深さを学び、学習院の法科大学院は教授と学生の距離が近くていいと聞き、交通の便もよく、通い慣れていたことから、この大学院を選びました。

神前教授 本当にいろいろなきっかけがあったのですね。皆さんがおっしゃるとおり、学習院の良さはなんといっても、著名な教授陣の授業を少人数で受けられることです。積極的に先生に質問するなど、活用の余地は存分にあると思います。

司法試験に携わる数々の教授陣による印象深い授業とは?

神前教授 私自身も、学生時代に教わりたかった(笑)と思う先生が何人もいらっしゃいますが、皆さんはどのような授業が印象に残っていますか?

R.M. どれも充実していて選べないほどです



が、民法・会社法・民事訴訟法の民事系の授業は、想像以上に基本からしっかりと学べたことが印象的です。教科書では1、2行で終わってしまうけれども重要な部分を細かく伝えてくださったので、元々苦手な分野でしたが、哲学があって面白いと感じるようになりました。

星野 私もひとつに絞りたいですが、強いていえば、若松良樹先生の法哲学が印象的です。人間そのものや自分自身について、法曹になるための心構えを深く考えさせられました。

安田 3年次の演習が特に充実していました。特に安村勉先生の刑事訴訟法演習は、先生1人に学生3人の状況で180分もの時間をかけて、問題をじっくり検討してくださいました。自分の答案の良くない点を具体的に指摘していただき、読み手が納得する書き方を指導していただいたので、とても役立ち、ためになりましたね。

宮田 ほとんどが司法試験の科目になる2年次の授業は、重要だったと思います。特に私は予習時間を多く取っていたので、今思うと、それが最終的には司法試験合格に至る、必要な基礎を固められた時間でしたね。

神前教授 以前通われたロースクールと比べていかがですか？

宮田 以前は約40人のクラスが6つもあるような大規模校だったので、1回の授業で



R.M.

当たる回数も違いますし、質問をするにも行列に並びます。ここでは授業中に何度も当たるので予習が必要ですが、わからないところもすぐ質問できることは良かったですね。

神前教授 ありがとうございます。皆さんが司法試験に合格して気づくのは、“基本的なことを聞かれていた”ことではないでしょうか。ただ、合格レベルにある方にとっての基礎・基本と、勉強途中の方のそれは、レベルが違うこともあります。2年次で法律基本科目をきちんと学び、3年次の演習で応用力が鍛えられて初めて気づくこともありますね。

合理的で充実した自習環境と実務家の先輩たちとの距離の近さ

神前教授 本法科大学院が提供する環境やサービスで良かったと感じられたものはありますか？

R.M. 環境で一番良かったのは、自習室ですね。学習院の中でも新しいビルの9階にあって、景色も良く、固定席で自分専用の書棚とロッカーまであることは、ほかの学校に比べてもダントツでいい環境だと思います。また、その1階上に法科大学院用の図書室があるので、ちょっとした調べものもすぐにできました。いつも友達がいって、来ると安心する場所でもありましたね。

宮田 机があって、自分専用パソコンを貸してもらえることも非常に良かったですね。

安田 僕も自宅では勉強できないタイプだったので、朝7時から夜11時まで年中無休で使用できる環境は、とてもありがたかったです。

神前教授 パソコンからオンラインのデータベースで判例を検索することもできますね。また、さらに詳しい調べものは法経図書センターでも可能です。ちなみに、その蔵書の



安田 伸一朗

充実ぶりは、法務省の方も時々利用されているほどで、学習院として自慢できる場所ですね。

星野 私は学習院が大好きなので、良かったところを挙げるとキリがないんですけど(笑)、一番は法実務講座でしょうか。月に1、2回、学習院を卒業された実務家の先生方が行う任意参加のゼミで、私はすべて出席していました。弁護士さんが目の前で、合格のノウハウをたくさん教えてくれる。しかもそれが定期的にあるので、モチベーションも維持できましたし、合格に必要なことを全部そこで教えてもらったと思っています。

司法試験までの期間を乗り越えた合格者たちの精神的な支えとは？

神前教授 ほかの皆さんは司法試験までの間、どのようにモチベーションを高めていましたか？

R.M. めげそうになるたび、長いもので20年にも及ぶ過去の裁判に思いを馳せ、自分を励ましました。また、どんな事件でも勝つと信じて裁判を続けるのが法曹です。司法試験の段階でそのマインドが自分になれば、今後も仕事はできないと念じていましたね。

宮田 去年は、8月にずれ込んだ予備試験の短答式試験から、ずっと試験を受けたりレポート

合格者座談会



星野 有紀

を書き続けていたので、常に試験のモードでした。モチベーションは本番まで常に高まっていたね。

安田 僕は合格するまで、2回試験に失敗しています。その都度、親が「ここで諦めるの？ になりたいものがあるなら、それに向かってがんばるしかないよ」と背中を押してくれました。

神前教授 誰かと交流したり、試験を受け続けたりと、外との関係や刺激がすごく役に立ったんですね。やる気が出ないことは人間いつでもあると思いますが、「いかにやる気を出すか」よりも、「やる気がなくても勉強できる仕組みを作っておく」ことのほうが生産的です。私もすごく参考になりました。

今明かされる合格の秘訣！ 必要なことは、基本と繰り返し

神前教授 実際、司法試験本番の対策としては、どんなことを重視しましたか？

R.M. 教科書を読み、問題集を解くという基本的なことですね。ただいつも、その奥に歴史を感じ、法曹の営みを大事にする気持ちで、自分に沁みていく納得感を重視していました。そうすることで、全国の法曹の共通言語ともいえる、法律の独特の考え方や、物事の整理の仕方をつかんでいけたと思います。

星野 論文を起案して添削を受ける機会の確保と、暗記です。私は起案の機会がある講座やゼミにはすべて出席しました。そこで自分の答案を分析してもらい復習することで、

合格答案が書けるようになりました。また、暗記は苦手でしたが、法律の定義や構成要件は一言一句違わず、論文の長い論証は模範解答と同じ内容が言えるように覚えました。本番では、自分でまとめたノートの内容の9割は頭に入っている状況で臨みましたね。

宮田 過去問を解くことが大事だと思います。特に、短答式試験では過去と同じような問題が出題されるので、繰り返し解いて、解答の精度を上げていきました。論文式試験では、出題趣旨や採点実感で、試験委員の採点基準を知ることができます。点をとるには、自分かと思うことなく、自分で分析し、納得した採点基準で書ける状態にしておくことです。

安田 僕が意識していたのは、参考書収集マニアにならないこと。「これだ」と思う1冊を決めて何十周も解いていけば、そのうちだんだん知識として定着し、論文や答案を書けるようになります。特に重視したのは憲法の「判例百選」。司法試験の出題趣旨や採点実感にも、「判例の理解が特に大事」とあったので、穴が開くほど読み込んでいましたね。

神前教授 ゴールまでの過程は人それぞれですが、とにかく情報を一箇所に集約して、この情報を自分の頭の中にすべて取り入れて試験に臨めば合格できる、という核になるようなものがあれば良いですね。授業でも、自分がどんな知識を吸収して、答案を書くときにどう役立てるかという意識で勉強していただき

たいですが、その点、合格した方々は会得されていて、さすがだと思いました。

未来の法律家たちへ送る 実感のこもったメッセージ

神前教授 では、これからロースクールで学ぶ後輩たちにアドバイスをお願いします。

R.M. 司法試験や法律の世界は茨の道です。未来が見えない暗いトンネルを歩き続けなければならないことが、自分にとって一番大変でした。ですから、「何かが約束されているから努力をする」のではなく、「自分はどうありたいのか？」と自分に問いかけ、「約束はされていないけど信じて努力を重ねる」という決意で、法律の勉強を諦めずに進んで欲しいなと思います。

星野 “焦らないで続ける”ことを止めないで欲しいです。合格までの道のりは長く、勉強の内容も膨大かつ難解で、覚えては忘れの繰り返しです。でも、それは当然のこと。とにかく続けていれば、気づいたときには合格ラインに立っています。焦らず続けることを、止めないでください。そして、悩んだときには合格者の先輩方や先生に相談して、舵取りをしてもらってくださいね。

宮田 毎日1コマの授業のなかで、自分が知らないことを1つ見つけることですね。それを積み重ねていけば、すごく膨大な知識になり、最終的には司法試験合格につながっていきます。





宮田 佑介

安田 今改めて重要だと感じることは、継続力と忍耐力です。1日を同じリズムで生活し続けられれば、試験当日に何があっても体調を崩すことはありません。また、気持ちが沈んだときに持ちこたえ、持ち上げられる力も必要不可欠です。加えて、あらかじめ心が乱れないように自分の身の回りを整えたり、周囲のサポートを得やすい環境作りも大切だと思います。

神前教授 なるほど。いろいろな学生を見ていて思うことは、まず、模擬試験などできちんと

自分の実力を把握して欲しいということです。今の自分の力が、ゴールとスタートとの間のどこにあるかを意識しながら、他方では、ゴールと自分の今の実力の距離の遠さに囚われず、着実に一歩ずつ積み重ねている自分もきちんと認める、その両方が必要かなと思います。

司法試験に合格した今 改めて見据えるこれからの目標

神前教授 最後に、皆さんの今後の目標を教えてください。

R.M. 私は人権に関わる分野の弁護士を目指しています。今アルバイトをしている法律事務所が刑事事件や医療過誤訴訟、命や人の健康、自由に関するものを中心に扱っているんです。まさにそれが私の理想ですね。

星野 弁護士を目指してきましたが、司法試験に受かってみて、自分がどういう法曹になるかを考え直しているところです。最終的にはあらゆる法律問題に対処できるように

なりたいので、依頼者の気持ちを汲み取りながら、自分にご縁のあった人の人生が少しでも前に進むように、自分の人間性も高めつつ、法律を勉強していきたいです。

宮田 私は、企業法務中心の弁護士になりたいです。ただ、司法書士の資格を活かして不動産関連にも手を伸ばそうか、考え中です。

安田 精神面が非常に問われる職業といわれる検察官という目標に向けて、司法修習でいろんなことを学んで吸収していきたいです。

神前教授 これまでの自分の夢をいよいよ実現できる時が来でしたね。それぞれ前途洋々な将来の道を、存分に開いていってください。そして、可能な範囲で、後輩の面倒を見ていただければと思います。いつか、今の夢が変わることがあっても、法曹資格を持っていれば、また違う方向を目指すこともできるでしょう。ですからいつも、そのときのご自身の理想を追いかけていってくださいね。

MEMBERS

司会進行

神前 禎 (法務研究科長)

金沢大学法学部助教授、学習院大学法学部助教授、同教授を経て、2004年より学習院大学法科大学院教授。日本私法学会、日本国際法学会、日本国際私法学会に所属。



安田 伸一朗

学習院大学法学部
法学科出身
2019年3月学習院大学法科大学院
修了(法学既修者コース)
2021年司法試験合格。

星野 有紀

静岡大学人文社会科学部
法学科出身
2020年3月学習院大学法科大学院
修了(法学既修者コース)
2021年司法試験合格。

R.M.

早稲田大学第二文学部
社会人間系専修出身
2021年3月学習院大学法科大学院
修了(法学既修者コース)
2021年司法試験合格。

宮田 佑介

慶應義塾大学法学部
法律学科出身
2021年3月学習院大学法科大学院
修了(法学既修者コース)
2021年司法試験合格。

SYMPOSIUM

合格者座談会

2019年度司法試験に合格を決めた法科大学院修了生の4人が恩師の野坂教授のもとに参集。母校学習院で過ごした貴重な時間に思いを馳せながら、受験の秘訣や法曹を目指す皆さんに向けたメッセージなどを、語りあってもらいました。(インタビュー実施日:2019年10月24日)

この道を目指した熱き思い そして、学習院法科大学院との出会い

野坂教授 皆さん、2019年度司法試験合格、本当におめでとうございます。まず最初に、法曹を目指したきっかけと、本法科大学院を選ばれた理由を教えてください。

畑中 大学時代に法学部の草野芳郎先生の『和解技術論』を読み、共感を覚えたことが法曹を目指したきっかけです。たまたま父が草野先生と友人だったこともあり、薦められ著書を読んだのですが、「和解」による紛争の平和的な解決方法にとても感銘を受け、法曹のやりがいと可能性を感じました。

私は他大学出身だったのですが、HPやパンフレットでいろんな学校を調べたところ、学習院大学法科大学院が少人数でサポート体制が充実しているほか草野先生をはじめとする著名な先生方の下で学びたいと考え、ここしか道はないと思い至りました。

宇津木 僕は中学と高校が学習院だったので、高校1年生の時に、ふとイタリアに留学をしよう! と思いたちました。最初は何事も挑戦だ、くらいの考えで行ったのですが、1年間の留学を経て、自分はいろんな人に支えられているんだなと実感。その思いはずっと続

き、大学で学部を選ぶ段階で、僕も人を助ける仕事がしたい、それができるのは法曹ではないか、と考えたのがきっかけです。

中屋 僕は一度社会人になってからの挑戦で、民間の会社で法務の業務に就いたことがあって、その業務がすごく面白かったのでキャリアアップの一環として弁護士を目指そうと考えました。ただ、僕が大学を卒業した頃は、ちょうどロースクールができて間もない時期で、興味があって少し法律の勉強をしたんですが、すぐにあきらめてしまったんですね。それが業務で法律に触れるようになってもっと主体的にやりたいなと感じて会社を退職して進学を決めました。学習院を選んだのは、経済的なコストを考えて、2年間の学費が免除される特待生制度があったことが1番の理由です。決め手となったのは、他大学と比較して教授陣の顔ぶれが豪華だった点で、もう学習院しかないと思いました。

竹内 きっかけは弁護士だった祖父の影響だと思います。祖父とは高校生の頃一緒に住んでいたのですが、当時は、手伝ってと言われるがまま、なにげなく仕事を手伝ったりしていただけでした。改めて具体的に考え始めたのは大学生の頃。私も他大学だったのですが、当時私が通っていた大学が少人数制だったの



野坂 泰司 教授

で、そこが学習院と同じような環境だったこと、あと、カリキュラムがスタンダードでバランスが良いと感じたので、自分には向いているのではないかと学習院法科大学院への進学を決めました。

野坂教授 竹内さんは学芸学部出身でいわゆる純粋未修という貴重な存在ですよ。未修コースの学生は全体の3分の1程度。そういった未修の方々も勉強しやすい環境が学習院には整っています。また、中屋さんが利用した支援金制度・特待生制度も充実しています。難関の試験に合格するには、勉強する時間も費用もかかりますから、経済的なサポートは重要。試験勉強に集中してほしいとの思いから本学では各種の支援制度を導入しています。

長い試験勉強に心が揺らいだ その時の“やる気スイッチ”とは?

野坂教授 ここにいる皆さんは在学中落ち着きがあり静かな印象でしたが、皆さん、やっぱりうちに秘めた強いものがあるんですね。その強さも時には揺らぐこともあったかと思いますが、モチベーションを保つ秘訣はありましたか?



畑中 僕は、“悔い”がモチベーションになっていました。僕は5回目の受験で合格したのですが、2回目、3回目あたりから、「ああすればよかった。こうすればよかった。」と悔しい思いが強くなり、それが勉強方法の改善、ひいては合格意欲へとつながっていったのかなと感じています。あとは、初年で受かった仲の良い同期友達の影響も大きかったです。その友達から、“お前も早く合格しろよ”と、常々励まされていたのは、振り返ると貴重でした。

宇津木 僕も仲間の姿はやっぱり励みになりました。ひたすら勉強に追われていたけれど、一緒に自習室で勉強している同志の頑張っている姿を横目で見て、自分を鼓舞することは多かったです。

竹内 私はほとんど勢いで進んできたので、モチベーションを保つ方法を考えることがなくて。でも、一時期いきなりモチベーションが下がってしまったんです。その時は、真摯に接してくれる先生方の姿を思い出したり、いただいた励ましのメールを見返したりして、やる気を起こしていました。

中屋 試験勉強を始めた頃は、勉強が楽しかったんですけど、最近はちょっと飽きてきてしまって(苦笑)、早く受験勉強をやめて実



畑中 賢仁

際の事案にあたりたい、という思いで頑張っていた気がします。

心身をリフレッシュさせる 学習院の環境

宇津木 気分転換は必要でしたね。僕は構内にすごく好きな場所があって、そこで癒されてました。

野坂教授 それはどちらですか？

宇津木 血洗い池です。この都市にあって自然が広がる景色ですよ。あそこはなぜかホッとするというか、癒されました。

野坂教授 「高田馬場の決闘」で、堀部安兵衛が血刀を洗ったという伝説の池ですよ。学生たちの憩いの場になっていて、植物も動物も見られて気分転換にすごくいい。やっぱり気分転換は大事ですから。そうそう、皆さんは、トレーニングセンターは利用しましたか？ 私は少しセンター開設に関わったんですけど、体を動かすと気持ちがいいもので、ちょっと運動して発散、そのあとは勉強も捗りますよね。

中屋 僕は入学した頃からたまに利用してましたが、去年の春くらいから使い勝手がよくなったのでよく利用するようになりました。授業が終わって1時間ほどトレーニングして、自習室に戻って23時まで勉強しました。トレーニングセンターの使い勝手がよかったのは、すぐ助かりました。使い勝手といえば、自習室もよかったです。机の割り当て、ロッカー、書棚が充実していて、スペースがあるので、余裕をもって勉強できました。

宇津木 自習室の多さと広さは秀逸でした。僕はほとんどの勉強を自習室でしていたので、いい意味で苦くも思い出の場所です(笑)。

竹内 実のところ私は自習室をほとんど使っていなくて、図書館を利用していました。書物



竹内 香織

が豊富なと、付随した自習スペースもたくさんあったので、もっぱら勉強はそこでした。

野坂教授 司法試験は1回で受かるばかりではないので、何度も挑戦する方をどこまでケアできるかが大事だと思っています。そういった意味では、本法科大学院は施設も含めて充実しています。

将来法曹になった未来を見据えた 実践的な授業が、結局は試験でも 役立つ

野坂教授 さて、単刀直入に聞きますが、印象に残っている授業はありましたか？

中屋 「刑事模擬裁判」の授業は役立ちました。僕は公判前整理手続が苦手な教科書を読んでも条文を読んでもさっぱりわからなくて(苦笑)。でも、模擬裁で実際に体験してみると、講義形式の「刑事実務」という授業でも習ったら、自然と理解が深まりました。それが今年の本試験でも公判前整理手続に関連した問題が出たので、あてはめで深みのある答案が書けたような気がします。

野坂教授 それはすごいですね!

畑中 中屋さん同様に「模擬裁判」は印象的でしたが、「起案等指導」も印象に残っています。

SYMPOSIUM



宇津木 陽太

3~5人に対して1人の先生で進んでいくので、少人数制のよさが格段に現れる授業のひとつでした。しかも教えてくださる先生がなかなか直接指導を受けることができない素晴らしい方々で、そんな先生方が直接答案を見ながら教えてくださる機会なんて、こんな贅沢な時間はないと思います。それにプラスして、法曹になった時の文章力が身につくと感じました。

竹内 私は1年生の時の授業はすべて印象的で、特筆するとしたら、「判例事例研究」です。6人ほどの学生が判例を発表したりするのですが、判例の読み方などがじっくり学べて印象的でした。他の学生たちの発表も聞きながら、先生とのやりとりを聞くことで、理解が深まっていきました。

野坂教授 司法試験に受かる実力をつけたいのは当然ですけど、やっぱり法曹になった時にそれを使いこなせる力をつけること。具体的な事案について実際に法律家としてどう考えるか、どう解決して行ったらいいのかを考えるのがついた人こそが受かると思うんです。

宇津木 野坂先生のおっしゃる通り、今考えると、試験と直接関係のない授業がためになっただけだと実感しています。確かに勉強している最中は、自分は司法試験に合格したい一心なので、なぜ関係ない授業をやらなきゃいけないんだろうという思いも否めなかった。でも、いざ合格して実務をやりながら自分がどういう法曹になるのかと考え始めた時、法律がどういう風に使われているのかの実践的な授業がためになったと

感じています。印象的な授業をひとつ挙げるとするなら、「支払決済法」です。手形や小切手を扱う授業なのですが、電子マネーとか交通系ICなど、いまどきの新しい分野で法律をどう使うかを考えるきっかけになる授業でした。

今だから話せる 各々の受験対策のポイント

野坂教授 そうですよ。皆さんは合格しているからこそ、わかることがあると思います。とところで、司法試験の受験対策で重視したことはありますか？

中屋 まず過去問をこなすことはきっとみんなも同じだと思うのですが、それ以外だと条文の勉強を特に重視しました。条文は法律解釈のスタートですし、試験の現場で参照できるのは六法だけですので、例え問題の所在がよくわからない問題が出て、何か使えそうな条文を引いて処理できれば、最低限の点数がつくのかなと考えてました。

宇津木 司法試験は、基本的には2時間で答案を書くことになるので、時間の使い分けが合否を決めると思いました。なので、普段から時間を気にしてストップウォッチをデスクに置いて、時間に追われるようにしていました。あとは、事実と法律の結びつき、司法試験は基本的にこういうことがあったという事実しか書かれていないので、それにどういう条文を使うかということにも気を留めて勉強しました。

竹内 私はあまり手を広げすぎないように気をつけようと、基本書と判例集と過去問、その3つを繰り返し、立体的に理解を深めるように勉強していました。あまり多くに手を出すと苦手のタイプなんです。

畑中 僕は中屋さんと似ていますが、まずは条文の理解を深めること。そして、法律の論点、問題となる点の理解を深めること。いわゆる司法試験でやってはいけないといわれている「論点パターンを貼り付けるだけで終わり」にはしないように心がけていました。

野坂教授 いわゆる論点主義ですね。それぞれの論点は、そんなに簡単に特定の解答パターンにはめ込めるものではないです。事案というのは生きているので、過去のパターンに当てはめるところで本質をついてないことが多い。今日の前にある事案をどう解決すべきかが問われているのに、決まり切った答えしかできないようでは、法律家になって、実際に依頼人から来た要望には応えられないでしょう。それぞれの事案の特殊性に即して、関連する条文を引きつつ、どういった道筋で解決を図るか。これができると合否を分けるんです。そういったことを踏まえて、これから受験する人たちに、今後の目標とアドバイスをしてください。

同じ目標に挑む 後輩達へのメッセージ

宇津木 基本的には、がむしゃらに勉強するこ





中屋 竜博

とかと思います。あとは、目的を持ってやってほしいです。勉強すればするほど見返りのある試験ではないので、自分にはこれが足りないなということを見極めて、自分なりの勉強法を見出すのが近道かなと感じます。

中屋 ロースクールに来る人は1人で黙々と勉強しても受かりにくい人が多いかと思いますが、そういう人たちにこそ、ロースクールの授業は役立つと思います。日々の授業を大切

にしてもらいたいと思います!

畑中 学習院に来るなら、やっぱり少人数制という良点をポイントに、同期や先輩、後輩といった仲間とのつながりを大切に勉強してほしいです。

竹内 私もそう思います。学習院は贅沢な教授陣に、少人数で教えてもらえますので、積極的に勉強してほしいと思います。

ここからスタート 未来へ広がる夢を胸に

野坂教授 最後に、皆さんの目標を教えてください。

宇津木 日本の弁護士は大勢として、事が大きくならないと動かないところがあると思うんです。それよりも前に、世間話的な流れから、これは問題になりそうだなと感じる小事から解決できるような、弁護士になりたいと思っています。

竹内 私はまだ具体的にどうしようか考えて

いないのですが、いろんなことをやりながら、来た案件は何でもこなせる弁護士になれたらなと思っています。

中屋 私も弁護士を目指しています。具体的にはまだ考えてないのですが、ただ、なるべく早い段階で独立したいなとは思っています。それでいつか気の合う仲間たちと事務所を構えられたらいいなと思っています。

畑中 当初は裁判官志望でしたが、少し変わってきています。今、企業の法務部門に勤めていますが、私がキーワードにしている「紛争の平和的解決」が企業法務と関連している点に気づいたのです。また、昔から著作権が問題となるような芸術分野に興味があったので、企業法務もやりつつ著作権を専門分野として活躍できればと考えています。

野坂教授 誰しも認める非常に難しい試験を、皆さんよく頑張ってクリアしましたね。これからはそれぞれの分野で力を発揮して、法の支配を担う優れた法曹として活躍してください。そのことを心からお祈りしています!

MEMBERS

司会進行

野坂 泰司 教授(専門分野:憲法)

東京大学法学部卒業。
東京大学法学部助手、立教大学法学部教授を経て、
1994年より学習院大学法学部教授。
2004年より学習院大学法科大学院教授(現在に至る)。
2007年4月より2013年3月まで同法務研究科長。
日本公法学会、日米法学会、国際憲法学会に所属。
司法試験・予備試験考査委員。



畑中 智仁

日本大学法学部法律学科出身。
2015年学習院大学法科大学院修了(法学既修者コース)。
2019年司法試験合格。

竹内 香織

津田塾大学芸学部英文学科出身。
2018年学習院大学法科大学院修了(法学未修者コース)。
2019年司法試験合格。

宇津木 陽太

学習院大学法学部法学科出身。
2018年学習院大学法科大学院修了(法学既修者コース)。
2019年司法試験合格。

中屋 竜博

青山学院大学経済学部第二部経済学科出身。
2019年学習院大学法科大学院修了(法学既修者コース)。
2019年司法試験合格。

SYMPOSIUM

合格者座談会

念願の司法試験に合格した法科大学院修了生4名が長谷部由起子教授のもとに集結。学習院で過ごした充実した日々を振り返りながら、これから法曹を目指す学生たちに向けてのアドバイスや、自身の将来の夢などについて熱く語り合っていました。(インタビュー実施日:2018年10月24日)

法曹を志したそれぞれのきっかけ。 学習院法科大学院を選ぶまで。

長谷部教授 みなさん、2018年の司法試験合格、本当におめでとうございます。長い戦いお疲れさまでした。早速ですが、みなさんが法曹を目指したきっかけと、本法科大学院を選ばれた理由を教えてください。

戸島 少し特殊かもしれませんが、具体的な将来像がないままロースクールに進み、受験を終えたというのが正直なところ。常々資格を持ちたいと思っていたことが法曹志望へのきっかけになっているのではないかと思います。

学部から学習院で学んでいたこともあり、ロースクールはここだけ受けました。入ってみて自分の選択が正しかったと感じたのは、少人数制との出会い。学力も高くないまま入学したので、大人数だと埋もれて、コンプレックスを抱えてしまい、今日の自分ではなかったのではと思います。先生方の厚いフォローを受けながら勉強ができ、自分の能力に合わせて成長ができた環境でした。

伊藤 中学の時に読んだ漫画の中で、「おまえは普通に生きて普通に死ぬ」と主人公が告げられるシーンが衝撃で(笑)。先が見えてしまう人生をイヤだと感じるようになり、特殊な

技能を身につけようと思ったのが司法試験を目指したきっかけです。

大学が大人数だったので、学ぶなら絶対に人数が少ないところが良いと決めていました。あとは駅から近いこと、緑があること、下見に来た時にとても好感を覚え、本学への入学を決めました。

齋木 中学・高校と勉強嫌いで成績が悪かったのですが、ある時期に女の子向けのラブコメディ映画を観て、弁護士になっていく主人公の姿に憧れたのがはじまりです。無理かもしれないことに挑戦したいと決意しました。甘かった自分から変われるかもしれないと思いました。

学部が学習院でしたので馴染んでいたことが一番の理由です。緑の多いこのキャンパスが好きでした。貴重な時間をいかにストレスなく過ごすかを考えた時、長谷部先生をはじめ、旧知の先生たちがいることも頼もしかったですし、少人数教育も自分に向いていると感じました。

石井 私は他大学で、法学部政治学科に所属していました。ゼミで中国の法制度に関心を持つようになり、それから法に関心を抱くようになり、法と密接に関係する法曹の道を選びました。学部時代には法学の勉強はしておら



長谷部 由起子 教授

ず、本学に入学してからになります。法科大学院の情報を集めていた際、学習環境が良好なこととアクセスのしやすさにひかれました。入ってからは少人数制の良さを知り、ここで良かったと感じるようになりました。また、法学の勉強を学部でしてこなかったこともあり、学習院法科大学院は受験科目が少ないことも、理由のひとつでした。

忘れがたきと恩師と授業に 思いを馳せて

長谷部教授 みなさん、それぞれきっかけや理由があつてこの道に進んできたのですね。本学を選んだ理由の中にもありましたが、本学は先生とも、学生同士とも距離が近いのが特長ですね。少人数制だからこそ、顔も名前もすぐに覚え、授業だけではないコミュニケーションがあつたように思います。その距離が近い先生たちとの授業について聞いてみたいと思います。

戸島 刑事訴訟法を担当されていた女性検事の先生が印象に残っています。いつも分からない箇所を教えてもらい、2~3時間教えてもらったことも。はっきりと言われる方で「あなたはここ基礎がなっていない!」と、バツサリ。



すごく刺激になりました。悔しくて先生の前で号泣したこともありましたが(笑)。どんな時も、先生は諦めずに教えてくれました。本当に感謝しかありません。

長谷部教授 先生達も一緒になって戦っていますからね。今、話題に出ているのは、派遣の実務家教員として教鞭をとっていた現役の検察官の方です。そういう実力のある教員が揃っているのも本学の特長ですよ。

伊藤 私は高橋先生の刑事法応用演習が印象に残っています。とにかくゲストの先生がたくさん来ていたことを覚えています。保護観察官だったり、法務省の官僚だったりの方が授業に登場し、実務に就いた後に役立つことを学べたと感じています。長い試験勉強の中で、モチベーション維持にも繋がったと感じています。検察官の人脈で、法律に携わる様々な方の話を聞く機会は貴重であり、有意義な時間でした。

齋木 長谷部先生に担当いただいた法文書作成指導は、5人という少人数で行い、みっちり自分の答案をその場で直していただく機会となり、ズバッと、どこがダメだと指摘いただける貴重な時間でした。今でもこの授業で教わったことは、これからの基礎になると感じています。



戸島 真梨子

長谷部教授 事前にペーパーを提出してもらい添削して、当日はその内容を見ながら授業を行うのですが、それぞれの個性や論理の運びなど、良い味を出しているなと思っていました。添削は大変でしたが、みなさんの文章を拝見できることが楽しかったです。

授業といえば、模擬裁判は本番さながらで、準備も大変なこともあり、みなさんの記憶にも残っているのでは？

戸島 模擬裁判は基本書だけの机上の勉強から、実際に実務でその知識をいかにアウトプットして、具体的にやっていくのか、その架け橋となる授業だと思っています。実務家教員の先生から、「この知識はこういう風に使うんだよ」と教えていただける大変な機会でした。

齋木 書面を作ったり原告役の友人と頻りにコミュニケーションを取り、訴訟の方向を決めていく過程は、弁護士になったらこういう風になると将来を近くに感じる経験でした。

合格への秘訣、それは？

長谷部教授 みなさんが話してくれたように、たくさんの優秀な先生や、実務で役立つ講座が本学の魅力だと、自負しています。

今度は、司法試験の勉強について、気をつけていたことを聞きたいと思います。

戸島 基本書でインプットしてアウトプットとして過去問を解くというのを重要視していました。そしてその比率を1:1に確保することを意識していました。あとは受験直前になると、法律系の受験雑誌には今年の試験のヤマが出る。それが結構当たるので、チェックするようにしていました。

伊藤 同じく、インプットとアウトプットにつきると思います。特にアウトプットは、優秀とされ



伊藤 翔太

る答案と自分の答案を比較し、分析して、できていないところをインプットして、そして更にアウトプットをひたすら繰り返していました。決してゼロになることはないのですが、インプットする箇所をだんだん減らすように努力していました。

齋木 論文を書くのが苦手だったので、とにかく手を動かし、週に最低3通は手書きの答案を書くようにしていました。途中答案を防ぐために、あえて時間を短く設定して書き上げる練習もしました。短答式の勉強では、論文試験の勉強にも繋がるよう、全ての肢について三段論法で答えられるように繰り返し勉強しました。

心が折れかけた時の対処法

長谷部教授 インプットとアウトプットはやはり大切ですよ。この長い試験勉強中、優秀なみなさんでも、やはり心が折れてしまうような瞬間はあったかと思います。そういった際は、どうやってモチベーションを維持していたのでしょうか。

石井 ロースクールの生活は本当に華がないんです(笑)。勉強以外に気がまわらない、余裕もないのが現実。そんな生活を送っている時、大学の友人が他業種で活躍する姿と

SYMPOSIUM



齋木 美帆

自分を比べると、焦りが出ました。でも、「今はきついけれど、将来法曹として活躍するための基礎体力をつける大事な時期なんだ。大きく羽ばたく為に必要な時だ」と、繰り返し自分に言い聞かせるようにしていました。先生方が励ましてくれることも大きかったです。キャンパスで出会うと「勉強の調子どう?」「良くなってるよ!」など、親身になって声をかけてくれ、乗り切る力をもらいました。

齋木 私は、4度の受験を経験しましたが、9月の発表時にはいつも、こんなにやったのにダメなのかと落胆しました。その度に、弁護士を目指すきっかけとなった映画を観て、初心を思い出していました。また、行き詰まった時は、思い切って「メンテナンス日」を作り、好きなことだけやってリフレッシュをしていました。

伊藤 私は、モチベーションを無理に維持しようとしていなかったように思います。長丁場だと思わず、今日のやることをひとつずつやるのを毎日繰り返していました。足元だけを見てちょっとずつ、確実に進むように。そうすると、じわりとモチベーションも回復できていたように思っています。遠くを見ず、やれることをやる、その気持ちで乗り切りました。

戸島 2回だけ挑戦しようと思って臨んだのですが失敗し、一旦就職活動を行ったことも。でも、未練が残る、そんな姿を見た親から「三度目の正直だからもう一度挑戦してみたら?」と背中を押してもらい、もう1回やってみようとして1月から本格的に勉強を再開しました。

4ヶ月という限られた時間の中だったからこそ、あまり気持ちに波が立たずに短期集中で乗り切れたのかもしれませんが。

そして、他の情報に惑わされるのを恐れ、スマホは封印していました。一切を遮断して、唯一連絡を取るのは両親だけという状態でモチベーション維持に努めました。

緑があり、集中できる環境が いつも勉強をサポートしてくれた

長谷部教授 そうですよ、苦しい時はありますよね・・・本当に、みなさん頑張りましたね。さて、みなさんが学んだ本学の環境はどうでしたか?

石井 図書館がとてもありがたかったです。文献の検索システムも助かりました。調べ物をする上で、学校という環境は集中でき、目標を同じくする仲間もいて一番勉強をした場所でした。

齋木 こんな都心に緑があることに救われていました。頭が混乱した時は、森の中を歩いたり走ったりして、身体を動かすことで頭を切り替えていました。四季を感じながらリフレッシュできる環境があったことに感謝しています。

長谷部教授 馬場があり、自然があって、四季折々の表情がある。ここは私も好きな環境です。図書館の話が出ていましたね。法経図書センターの蔵書は、非常に充実しています。卒業して法曹として活躍している方も利用するほど。みなさんも是非活用してくださいね。それから、トレーニングルームには様々なトレーニング用の機器が揃っています。司法試験は知力はもちろん、体力も必要ですからね。利用した方はいらっしゃいますか?

石井 はい! 息抜きにもなりますし、身体を動かして勉強のメリハリにも役立ちました。

戸島 ランニングマシンはよく使いました。10km走ったりして、スッキリしてまた勉強に向かっていくことを思い出します。

齋木 環境といえば、自習室からは富士山が見えることもありましたね。

伊藤 あとは、駅から徒歩30秒程度というアクセスの良さはすごいですよね。

成績上位者に付与される 学費減免なども充実

長谷部教授 学生相談室というのもあります。精神的にダメージを抱えてしまった時に相談にのってくれる体制も整えています。ケアする体制といえば、授業料減免も充実していますよね。

戸島 私も学費の半額免除を受けました。本学は少人数制なので、大人数制に比べて頑張れば成績上位になれる。そうすると、学費の全額免除か半額免除が受けられる。頑張り次第で、金銭面でも負担が軽くなりました。

これからのグローバル化を睨んだ インドネシア国際交流プログラム

長谷部教授 少し話題を変えますが、2017年から始まった「インドネシア国際交流プログラム」に参加された方はいらっしゃいますか?

石井 はい。有意義な時間でした。元々国際関係に関心があったので貴重な経験になると思い参加を決意しました。現地では最高裁判所、憲法裁判所、地方裁判所を訪問しながら現地の法律家と交流を図り、施設や設備を見学させていただきました。法整備支援として日本やオーストラリアが和解・調停などの法整備支援を行っているのですが、日本がどのように法整備支援に関わっていたのかを理解する良いチャンスに恵まれたと感じています。行って良かったと思っています。

これからの道 そして、目指す君へ

長谷部教授 グローバル化が進む昨今、法曹は国内に限らず活躍することが予想されます。海外の法を知るこのような制度を活用していただければ良いですね。



石井 健太郎

長い時間、みなさんのお話を聞かせていただきました。最後に、これからの目標と、合格者としてあなたたちに続く後輩にメッセージをお願いします。

石井 私は今、AIのことが気になっています。急速に発展していく様子を見てみると、社会のあり方や法曹の活動にも影響があるように感じています。動向に注視しながら、法曹として関わっていけるようにしていきたいです。

贈る言葉としては「時間や体力は有限。だからこそ、やるべきことと、自分には合わないのでやらないこと、その取舍選択が大事」ということです。メリハリをつけながらしっかり頑張っしてほしいと思います。

齋木 いつでも依頼者の側に寄り添うことのできる弁護士になりたいと考えています。知的財産法選択だったので、知財分野で企業をバックアップする仕事ができれば嬉しいです。受験生の皆様には、ロースクールでは、失敗を恐れずしてほしいと思います。恥ずかしい、悔しいと心が折れそうになることがあっても、それは必ず力になると思います。そして、時間は自分が思うよりも早く過ぎていくので、夢に向かって毎日を悔いのないように過ごしてください。

伊藤 最先端の分野として宇宙関係がこれから進むと思っています。その分野に進出したいです。もちろん海外にも関心があり、ロシア関係に今、注目しています。

司法試験に挑戦している方へ。長丁場なので、

最後に重要になってくるのは「踏ん張り」です。『モンテクリスト伯』の中の言葉に「待て、しかして希望せよ」というものがあります。その通り焦らず、でも決して諦めないで進んでほしいと思います。

戸島 本学で学ぶうちに、行政側に携わりながら政策や法改正に関わりたいと思うようになりました。具体的にはこれからですが、進んでいきたいです。

伝えたいことは、「勉強だけに専念できるのは、人生の中でこの時期だけだよ」ということ。贅沢な時間でした。たくさんの本を読み、楽しんでほしい。社会に出てからはこんな機会はない。今を、大いに楽しんでください。

長谷部教授 これからも大変だと思いますが、本学で学んだことを活かして法曹界で活躍することを楽しみにしています。長い間勉強を頑張られたのですから、この先もきっと大丈夫。頑張ってください。

MEMBERS

司会進行

長谷部 由起子 教授(専門分野: 民事訴訟法)

東京大学法学部卒業。

1983年成蹊大学法学部専任講師

(1985年より助教授、1994年より教授)。

1998年学習院大学法学部教授。

2004年4月学習院大学法科大学院教授(現在に至る)。

日本民事訴訟法学会、日本私法学会、金融法学会に所属。

2012年より司法試験委員会委員。



戸島 真梨子

学習院大学法学部法学科出身。

2016年学習院大学法科大学院修了(法学既修者コース)。

2018年司法試験合格。

伊藤 翔太

國學院大学法学部法律学科出身。

2017年学習院大学法科大学院修了(法学未修者コース)。

2018年司法試験合格。

齋木 美帆

学習院大学法学部法学科出身。

2015年学習院大学法科大学院修了(法学既修者コース)。

2018年司法試験合格。

石井 健太郎

慶應義塾大学法学部政治学科出身。

2017年学習院大学法科大学院修了(法学既修者コース)。

2018年司法試験合格。

SYMPOSIUM

合格者座談会

念願の司法試験に合格した法科大学院修了生3名が若松良樹教授のもとに集結。学習院で過ごした充実した日々を振り返りながら、これから法曹を目指す学生たちに向けてのアドバイスや、自身の将来の夢などについて熱く語り合っていました。(インタビュー実施日:2017年10月16日)

法曹への道のはじまり、 学習院法科大学院との出会い

若松教授 今年司法試験に合格を果たした3人の修了生に集まっていただきました。おめでとうございます。まず最初に、法曹を目指したきっかけ、そして本法科大学院を選んだ理由を教えてください。

小野 私の地元は自分が高校生の時、いわゆる弁護士ゼロワン地域でした。そのため1人目の弁護士の方が赴任してきた2008年、ニュースになったことがありました。その時に漠然と弁護士に興味を持つようになりました。明確に法曹を目指すようになったのは、大学で所属していた学生団体の法律相談所での経験をしてからです。実際に相談に来た方が法律のアドバイスによって、不安だった顔を少しほっとした表情に変えていく様子を目にし、弁護士のやりがいを知りました。学習院を選んだ理由は、学生時代と環境を変えたかったからです。学部は多人数だったので、周りに埋もれ、自分をうまく出せない感覚を日々感じており、少人数制の学習院にひかれました。ですので、受験は学習院に絞っていました。

白鳥 幼い頃から人を喜ばせたり笑顔にし

たりすることが好きだったこと、自分を常にブラッシュアップし続けたい性格であったことが、今に繋がっていると思います。そのような性格に合う職業は何だろうと模索していたのですが、学部の4年時に、裁判所や弁護士事務所を見学した際、活き活きと働く法曹の姿や、当事者の切迫した様子を目の当たりにして法曹を目指すことにしました。私は学部も学習院の法学部出身で、前研究科長であった大橋先生をはじめ、本学の先生たちの授業がわかりやすいと感じていました。また授業参観で5~6人の生徒に対してぐいぐい先生が質問している風景をみて、こんなやり取りをしていたら本当に試験に合格する力がつくのだろうなと感じ本学を選びました。他のロースクールは受けていません。

小暮 大学時代に弁護士資格を持っている先生と出会い、その人に憧れたことがきっかけです。生き方、考え方、すべてを尊敬している方で、憧れが募り先生が身を置く法曹の世界へ進みたいと考えるようになり、大学3年生の頃、はっきりと法曹を目指すことを決めました。学習院(未修者コース)に決めたのは、法曹を目指す決めた時期が遅かったため、自分のレベルに自信がなく、でも努力は誰よりもしようと思っていたので、その努力



小暮 駿生

を救ってくれるような大学院はどこだろうと探していた時、少人数制の学習院法科大学院であれば期待通りの教育を受けることができると考えたからです。少人数ならば、努力している自分の姿を先生が見てくれて、その気持ちをくみ取ってくれるのではと思いました。また、人数が少ないのでみっちり教われると考え進学を決めました。

基礎知識をどのように使うかを 目的にした実践的な授業

若松教授 みなさんも挙げていただいた本学の「少人数制」ですが、やはり先生と学生の距離が近い。学生ひとりひとりをしっかり把握している面倒見がよい先生が多いのが特徴ですよ。その分学生は授業がきついのだろうけれど、真剣に向き合ってくれるからこそ鍛えられたのではないのでしょうか。

大規模校にももちろんいい面はあると思うのですが、学習院は幼稚園からずっと少人数制ですから、少人数制へのこだわりやノウハウは強いと思っています。

それでは次は、入学してからのことを伺っていきしたいと思います。まずは印象に残っている授業のことを聞かせてください。



小暮 特に印象に残っているのは、神前先生の「国際私法」です。理解までに時間がかかるタイプなので大変でしたが、悩んでいる箇所に気がついてもらえたことがありがたかったことを覚えています。「最近悩んでるね」「君は焦るクセがあるから気をつけなさい」といった、学生の個性に合わせた的確なアドバイスにとっても助けられました。

白鳥 よかった授業を挙げればキリがないのですが、強いて言えば岡先生、能見先生、長谷部先生等は、あてられて答えると本当にわかっているのかを試してください、苦しいですがありがたかったです。予習をして、自分でこうかなというところまで回答を用意していくのですが、やっぱり表面的な理解のことも多く、違う角度から質問されると答えられない場面もありました。けれど、司法試験では考えたことがない問題もあるので、わからない…と苦境に立たされた時、どうやってひねり出すか、そういった訓練ができた実感しています。

小野 2つあります。ひとつは入学してすぐの長谷部先生の「民事訴訟法1」。これはインパクトのある授業でした。1学年20数人と少人数にもかかわらず、それを更に2分割して10数人に1人の先生がつく。だから必ず毎



若松 良樹 教授

回あたるんですね。既修ながら全然知識がない状態で入学したので、予習で長い時間を使いました。それでも授業ではうまく答えられないことが多く、更には詰まっても逃してくれずにそのまま返答を待っていたり、パスしても隣の人が答えたあとまた自分に返ってきたりと、学部時代とはまったく違う授業の形式に、洗礼を受けた感じでした。

もうひとつは松村先生の「破産法」と「民事再生法」です。法解釈、判例の理論やそれに対する学説も大事だけれども、その議論はそれでいいから、事件の解決はどうする？ ということをとにかく聞かれる授業でした。具体的な事案に対して、どういう結論をとるのかを必ず聞かれる授業でした。これも予習が大変でした。毎週何時間かかったかわからないくらい大変でした(笑)。

一人ひとりの専用机がある 自習室、蔵書が充実した図書館 学習環境も魅力のひとつ

若松教授 司法試験は基礎知識を試すのではなく、基礎知識が使えるかどうかを見ている試験。基礎知識が入っていることが前提で、揺さぶりをかけてくる問題があります。試験では1問や2問は誰もが頭がまっしろになるものがあると思います。そこで何もできないか、あがくことができるかの違いが大きいのです。

知っていることをどう使って切り抜けるか。本学では日々、基礎知識をどのように使うかを教えているので、先生との日々はきっと大変でしたよね？ そのつらさが今日の合格に繋がるのです。

さて、次は本学の環境について聞きたいと思います。司法試験は1回で受かる方ばかりではないので、何度も挑戦する方をどこま



白鳥 葵

でケアできるかが大事だと思っています。施設や環境ではどんなことが挙げられますか？

小暮 卒業すると今までの学習環境が使えなくなる学校もある中、本学はずっと同じ環境を使用することができ、在学生と同じように授業も聴講できる。ぼくは家では勉強できないタイプだったので、本当に助かりました。特に自習室の存在は大きく、朝から晩まで自分の自習室で過ごし、一番勉強をした場所です。自分だけの専用机があったことに感謝しています。

白鳥 自習室は愛着がわきますね。自分の部屋よりも長くいた場所でしたから。場所も広く、机の他に棚もあり、気持ちにゆとりを持って使えました。合格しても去りがたく、思い出に写真を撮るほどでした。

小野 私は法科大学院の学生図書室にお世話になりました。判例集がすべてそろっているので授業のためにコピーをしに行ったり試験対策の参考書も色々あるので結構頻繁に通っていましたね。法学部経済学部図書センターも通っていました。こちらは蔵書が充実していて、ほとんど揃うイメージです。自習室ももちろん活用させてもらいました。閉室の23時まで残っているいつものメンバーは顔見知りといいますが、戦友のような存在に近くなっていました。

SYMPOSIUM

学びをサポートする支援制度の ありがたさ

若松教授 少人数の副産物といいますが、スペースが大きくとれたのですね。だから自習室は専用の机と棚を用意できています。学校によっては、席取りの競争があり不便だと耳にすることもありますが。できる限りそういったストレスや不便は解消して、学生には試験に集中できる環境を整えることも学校の義務かと思っています。

支援金制度・特待生制度も同じです。アルバイトをしながら司法試験に挑戦する方もいます。難関の試験を合格するには、勉強する時間も費用もかかりますから、経済的なサポートは重要です。司法試験勉強に集中してほしい。人生をかけている学生さんをフォローしたいとの思いから本学では支援制度も充実しています。制度を利用された方はいらっしゃいますか？

白鳥 活用させてもらいました。本学法学部出身の入学者ということで、1年間学費免除していただいたのち、2年生3年生は、前年度の成績がよかったので、結局3年間学費を免除していただきました。すごく助かりました。模試の受験料補助制度もあり、4万円弱もする全国模試の受験料を負担してもらいました。学校の授業を頑張ることは、経済的なメリットにもなり、もちろん試験対策にもなりますから、おすすめです。

あと、活用という面でもうひとつあります。「法務研究所」では月一回のゼミと、科目別のゼミが開講されており、すべてに参加していました。授業はソクラテスマソッドをとりつつも基本は講義の形式でしたので、知識を入れるイメージ。一方で法実務講座は、試験の過去問などへの解答を書いて個別に添削してもらい、授業で教わったことをうまく出せるか確認するイメージ。授業はインプット、法務研究所の法実務講座はアウトプットと使い分けて活用させてもらいました。

若松教授 OB法曹たちによる「法務研究所」

も学習院の強みですよ。本学を卒業した熱い先輩たちが、自分の得意分野を学生にたたき込んでくれる貴重な体験ができます。現役の法曹が教えてくれるので、試験はもちろんですが、皆さんも今後更に「法務研究所」と繋がりをもち、人脈づくりや新しい知識の吸収に役立ててくれたらと思います。

皆さんは、試験勉強の途中、やる気が下がる経験はありませんでしたか？モチベーション維持で工夫されたことがあれば、教えてください。

やる気の持続方法とは？

小野 仲間の存在が大きいです。メンバーと毎日のように学校で会い、一緒に自主ゼミを組んで議論し合い、互いに研磨しました。そのおかげか、モチベーション低下はあまりありませんでした。友達を見て、負けていけないと常に感じていたものです。大学院での一番の宝は友人かも知れませんが、一生ものだと思います。

白鳥 「法実務講座」で毎回違う先生から頑張れ！ といってくれたことが励みになりました。エクスターンシップにも参加させてもらい、実務の一端を拜見できたことも大きかったと思います。実際の仕事を見て、法曹として働きたい気持ちに拍車がかかりましたね。将来の姿

を見ることで、今の勉強の意味を再確認したといえますか、はっきりと目標が見えたことがモチベーション向上に繋がったのだと思います。

小暮 勉強は辛いですが、実はこれまで本気で勉強したことがなくて、勉強することが楽しかったのが事実です。それから、自分のためにではなく、例えばお世話になった人のために勉強する。そのように捉えると自分が辛いことはどうでもよくなったんですね、そんな場合じゃない！ お金出してもらったとか、期待してくれている人のために頑張れたと思います。

あとは、自習室と先生方がいらっしゃる研究室が近く、行き詰まったり困ったりした時には気軽に先生に質問することができたこともモチベーション維持に繋がったと思います。

また、小野さんが仰っていたように、仲間の存在は本当に大きいと思います。ぼくも同じマンションの違う階に住んでいる仲間がいて、いつも励みになりました。

若松教授 これから自分達のように法曹を目指す方へ何かコメントはありますか？

小野 先ほどのモチベーションと重なるのですが、仲間をつくることをお勧めします。同じ目標を持つ仲間は本当に心強いです。学習院の伝統なのかもしれませんが、学生同士が共に協力しあうような空気があります。ここで仲





小野 光

間と共に励んでしてほしいと思います。

小暮 明るく楽しく元気よく、お互いに切磋琢磨してほしいです。質問しやすい環境があること、必死に勉強している人には、応えてくれる環境があることが、本学の強み、最大限に活用して合格を勝ち取ってほしいです。

教科書を書いている先生がいることも強いと思います。教科書を読んでいてわからなければひとりで悩まずに書いている本人に質問

できる。これは大きな強みではないでしょうか。

法曹の国際的な活躍を見据えた新プログラムが始動

若松教授 話は変わるのですが、2017年から本学ではインドネシアと交流プログラムを実施しています。法で紛争を解決していく法整備支援に日本も注力している中、本学もインドネシアと交流を続けています。ゆくゆくは法の運用までタッチできるような人材を育てることも視野に入れスタートしたプログラムです。法曹の国際的な活躍が益々高まりを見せている昨今、このような制度も是非活用していただければと思います。

ここがスタート地点。これからの夢へ

若松教授 最後に、これからの目標を教えてください。

小暮 ぼくの人生のテーマは「周りの人たちが幸せであってほしい」。それを実現する方法を今は模索しているところです。

白鳥 弁護士を目指して入学しましたが、検察官や裁判官も視野に入れ12月から1年間の修習に全力で取り組み、その中で進路を考えたいと思っています。

小野 私は、司法試験と並行で進めていた公務員試験も今年合格し、地方自治体への就職が決まっています。修習を先に延ばし、一度公務員として働いてみて、行政における法曹の需要を肌で感じてみたいと思います。将来的に自治体内弁護士になることを視野に入れることで、弁護士の新しい働き方を開拓できたら面白そうだなと考えているところです。

若松教授 皆さん、今日は色々なお話をありがとうございました。これからがスタートですね。どうか、その輝きをそのままにこれからどこまでも羽ばたいてください。教職員一同、あなたたちの活躍を心から願っています。

MEMBERS

司会進行

若松 良樹 教授(専門分野:法哲学)

京都大学大学院法学研究科基礎法学専攻博士後期課程単位取得退学(博士(法学))。

1989年東和大学工学部専任講師。

1994年成城大学法学部助教授(2001年より教授)。

2013年4月学習院大学法科大学院教授(現在に至る)。

日本法哲学会に所属。



小暮 駿生

東洋大学法学部法律学科出身。
2015年学習院大学法科大学院修了(法学未修者コース)。
2017年司法試験合格。

白鳥 葵

学習院大学法学部法学科出身。
2017年学習院大学法科大学院修了(法学未修者コース)。
2017年司法試験合格。

小野 光

東京大学法学部出身。
2016年学習院大学法科大学院修了(法学既修者コース)。
2017年司法試験合格。

SYMPOSIUM

合格者座談会

念願の司法試験に合格した法科大学院修了生4名が青井未帆教授のもとに集結。学習院で過ごした充実した日々を振り返りながら、これから法曹をめざす学生たちに向けてのアドバイスや、自身の将来の夢などについて熱く語り合っていました。(インタビュー実施日:2016年10月6日)

法曹への夢、「少人数制」への期待

青井教授 本日は今年の司法試験に合格したばかりの修了生4名にお集まりいただきました。皆さん、合格おめでとございます。まずは、法曹をめざしたきっかけと、本法科大学院を選んだ理由を聞かせてください。

河野 中学で法律に興味を持ち、高校時代に弁護士になったOBの講演会を聞き、法曹が目標となりました。本法科大学院を選んだのは、「少人数制」であることがいちばんの決め手です。というのも私は未修者ですので、法律に関する知識不足など、不安はいろいろとありました。そんなときに法科大学院の合同説明会で本学の方とお会いし、「少人数制で先生たちとの距離がすごく近いので、不安はすぐに解消できますよ」という一言にとても魅力を感じました。入学してみて、まさにその言葉の通りだったな、と今では実感していますね。

福嶋 高校時代、友人がトラブルに巻き込まれた際、弁護士さんが法的根拠に基づいて友人を励ますと、安心してすぐに元気を取り戻したんです。その出来事が印象的で、「法律知識で人に安心を与えられる弁護士ってすごい」と将来の目標になりました。私がロースクールを選ぶ際に重点を置いた要素のひとつに、先生方の顔ぶれということがありました。学習院には、大

学時代に愛用していた基本書の著者もいて、ぜひ、そういう先生方の授業を受けたいと思ったのが選んだ一番の動機です。

藤井 私の親は子供の私にも、身の回りで起こるトラブルに関して、包み隠さず教えてくれました。そのためか、子供の頃より自分なりにトラブルを解決して人の役に立ちたい、という思いがありました。中学で初めて弁護士という職業を知ったときに、「これだ」という直感めいたものがあって法曹をめざしました。私は大学も学習院なのですが、学部時代の先生方がそのままロースクールでも教鞭をとられています。先生方の授業がすごくわかりやすいことは、学部時代に体験していましたので、学部から一貫して引き続き教えていただきたいと本法科大学院を選びました。また、少人数制であることも重要なポイントでした。

青田 私はボランティア活動を通じて障がい者などと接していくうちに、社会には「法律でしっかりと守ってあげる必要のある方がたくさんいる」ということを痛感し、法曹をめざすようになりました。私は説明会の場でかなり多くの質問をしたのですが、先生方はとても親身になってくださり、すべての質問に丁寧にお答えいただけたことがとても好印象として残ったんです。そして「この先生方を信じて、自分の人生を預けてみたい」、そんなふうに強く感じて本



藤井 真沙美

法科大学院を選びました。

青井教授 多くの方が本法科大学院を選んだ理由にあげてくださる「少人数制」は、マンモス校にはない、大きな特徴のひとつです。「少人数制」を採用しているのは本法科大学院に限ったことではないと思いますが、重要なのはその成果だと思います。例えば、今年の司法試験の結果を合格率で比べてみると、首都圏の少人数の私学では間違いなくトップクラスです。つまり合格率で評価するなら、本法科大学院の「少人数制」はとてもうまく機能していると自負しています。そして今年も皆さんをはじめ、多くの合格者を輩出できたことを、教職員一同、とてもうれしく思っております。

添削指導もマンツーマンで
きめ細かに

青井教授 では次に、皆さんが実際に入学してからの率直な感想を教えてくださいたいのですが、まずは印象に残っている授業やゼミなどありましたらお聞かせください。

河野 私は人前で話すことがとにかく苦手でした。そのため本法科大学院が採用している、教授と対話形式で授業をする「ソクラテスメソッド」は、最初は正直、嫌だったんです(苦笑)。少人数



ですから毎回発言しなければなりませんし、でも、そのおかげで徐々に苦手意識を払しょくできたことがありがたかったし、自分の成長につながったと感じています。この点は私にとっての少人数制の大きなメリットでした。また、課題に対する答案を先生に提出してご指導いただく「起案等指導」では、自分の文章に対して本当に細かくご指摘をいただきました。自分では伝わるだろうと思って書いていても、直さなければいけないことがいかに多いかを実感し、相手に伝わる文章作りをしっかりと学ぶことができました。

青井教授 印象に残った授業として「起案等指導」(現・法文書作成指導)をあげてくださる修了生が多くなります。現在の教育では、大学で卒論を書いた方は別にしても、論理的にしっかりと文章を書くという機会は、小・中・高時代から考えても決して多くはないんですね。また、先生が学生の書く文章に対して、きめ細かな添削指導をするという機会も同じく少ないと思います。その点で本法学大学院は少人数制ですので、教員が中間や期末も含めたすべての学生の提出物に対してしっかりと目を通し、一人ひとりに対してきめ細かく指導していく体制、平たく言えば、“面倒見の良いロースクール”であると私も思います。

福嶋 答案に対する先生方の添削は大いに役



青井 未帆 教授

立ちましたし、文章力がアップしたことは司法試験でも生きたと思っています。また授業では、大橋洋一先生の「行政法2」が印象に残っています。「行政法」は学部時代にも一応学んだのですが、よくわかっていませんでした。大橋先生の授業は進め方が特徴的で、理論から入るのではなく、まず「こういう困った方がいたとします」と実例から入っていきます。その困った人のケースデータで実際に行政法をどう使うのか、という判例ベースのスタイルで教えてくださいますので、学部時代はピンと来なかった行政法のイメージがすごく鮮明に描けるようになりました。授業展開も、学生の疑問を解決させることを優先した方式ですので、授業が終わる際にはいつも充実感がありました。

藤井 そうですね、大橋先生の授業は予習が前提で、あとは一問一答でどんどんあてられていきますよね。その場ですぐに自分なりの考えを説明するという、思考の瞬発力が養われましたね。その意味で私も、「ソクラテスメソッド」という授業スタイルは本法学大学院の特徴であり良さだと感じています。あと、能見善久先生の「債権法改正」も印象に残った授業です。能見先生は学生に質問をするとき、学生が自分で答えを導き出すまですごく粘り強く待ってくださいますし、学生の発言がややズレていても頭ごなしに否定しないんですね。もちろん間違っていたら、それを修正できるように一緒に考えてくれますし、発言する際に萎縮せずに自信を持って発言できる雰囲気を作ってくださいますことが素晴らしかったです。また、青井先生もおっしゃられましたが、中間・期末の答案なども添削されたものが返ってきますので、自分が文章作成において気を付けるべきポイントがわかりやすく、すごく勉強になりました。

青田 私にとっていちばん役立ったのは「模擬裁判」の授業です。学習院には民事・刑事の両模擬裁判があり、そこでは学生が弁護士役や



青田 直洋

被告人役を担当し、その発言等に対して先生からの指摘・指導がなされます。民事・刑事の両訴訟を実際に体験することで、その流れを体で覚えていけることがこの授業の大きなメリットになります。それまでに座学で得ていたやや抽象的だった裁判に関するいろいろな知識が、この授業を通してより確かな知識となって結実していくのを感じました。またこの授業においては、ケースの設定等やや面倒な部分は先生方がお膳立てをさせていただきますので、学生側は問答等の裁判の実務的な部分に思考を集中させて取り組むことができるのも、すごくありがたかったなと思います。

学習環境の良さは大きなメリット

青井教授 皆さんが日々、学習院で勉強していて、ここが良かったと感じた学習環境や設備などにはどのようなものがあったのでしょうか？

河野 ロースクールでは、授業の予習も含めて「判例を読む」ことが勉強の要ですので、いかに多くの判例にアクセスしやすい学習環境か、ということが学校選びのひとつのポイントかと思っています。本法学大学院の場合、自習室の自分専用のパソコンから学校が提供する判例のデータサービスにアクセスすることで、かなりの判例情報や掲載雑誌等が検索できました。

SYMPOSIUM

また、図書館も充実しています。書庫にも入れますので、法律に関する膨大な資料に直接触れることができました。こうした環境のおかげで、気になったらすぐに調べというリズムが生まれ、勉強がとてもスムーズにできたなと感じています。

福嶋 そうですね、自習室に関しては自分専用の机があることもあって、私もすごく愛着を持っていました。朝7時から夜11時まで利用できるのですが、在学中ほぼ毎日、朝から晩まで、まるで自宅のように使っていましたね(笑)。自習室は校舎の9階にあり、ロビーに出ると窓から眺める景色もきれいなので気分のリフレッシュもできます。そして10階、11階には先生方の研究室があります。本法科大学院の良いところは、少人数制で先生との距離が近いところですが、自習室と研究室の距離も近い。自習室で勉強していてわからないことがあれば、気軽に研究室に向くことができましたのも、とても良い環境だと思いました。基本的にはアポイントを取りますが、「いま来ていいよ」と言ってくれることも多く、時間の許す限り個人授業のように教えてくださった先生方には、本当に感謝しています。

青井教授 自習室や図書館など様々な環境は、いま福嶋さんが言ってくれたように、皆さんに十分活用してもらえよう、快適に利用できる充実した施設であることを心がけて整備しています。法経図書センターは、法学部・経済学部・法科大学院の附属図書館ですが、蔵書数60万冊以上で学習院にしか

ない資料も入っています。実はすごい図書館。ですからロースクール選びをする学生さんたちには、ぜひ、本学の環境を見学会などを活用していただき、その目で見てほしいなと思います。

青田 「いつでも気兼ねなく先生に質問ができる」という、先生との距離の近さは、大きな特徴であり、学生にとって、とても大きいメリットだと実感しています。私もよく、青井先生のところへ、ついアポなしで行ってしまいましたが、先生はいつも喜んで迎えてくださいました。また、自習室も快適でしたが、自主的にゼミを行う部屋も使い方のルールが明確になっており、自習室同様に快適に使えたことでゼミでの学びがはかどったなと感じています。あと、学部は他大学出身なのでわからなかったのですが、学習院にはOBが後輩に勉強を教えるという伝統のようなものがあるのを感じました。というのも、OBの弁護士さんがよくロースクールに来て「僕が教えてあげるよ」と、疑問点に答えてくださったことが何度もあったからです。先生だけでなくOBの皆さんまでもが「面倒見が良い」ということは、入学して初めて気づいた本法科大学院の大きな特徴であり魅力でした。

青井教授 学習院には「法務研究所」というOBの法曹による組織があります。そのメンバーの方々が勉強面の世話だけでなく、人脈づくりや進路に関して相談に乗ってくれます。皆さんも今後は、さらに「法務研究所」を活用して、法曹として羽ばたいてほしいと思います。

藤井 本法科大学院には、春季・夏季プログラムがあります。先生方がそれぞれ工夫をして、通常の授業とは独立した補助的な内容のことを教えてくださいますので、学びに新鮮さがあり、特に夏場のちょっと勉強がだれ気味になるのを回避するのも大いに有効だったなと感じています。自習室の快適さに関しては、私も皆さんと同じ意見ですね。おそらく、学生一人当たりが使えるデスクの大きさも都内のロースクールでは、かなり大きい方ではないでしょうか。それが快適さにつながっていると思いますね。

モチベーションを高める充実の制度

青井教授 ほかに学習院で学んで感じたメリットなどがあれば教えてください。

福嶋 少人数制ということで先生との距離も近いし、同時に、同じ目標を持つ同級生との距離も近いですね。だから、いい意味での緊張感を保ちつつ、切磋琢磨できる友だちと出会える良さがあったなと感じています。最初はライバル意識から少し距離を置いていました。しかし競い合うように自習室に早く来るようになり(笑)、そのうちどんどん距離が近づいて、気がつくともゼミを組んで議論を戦わせていました。同級生の存在は、勉強のモチベーションを高く保つための励みになったと思います。

青田 私も「ロースクールはひとりで学ぶものだ」と思っていました。でも入学してみると、同じ目標に人生をかけている仲間であるだけに共感する点も多く、同級生の存在が刺激になることを実感しました。また、私の場合「ほめられるとダメになるタイプ」でした(笑)。そうした性格を先生方はよく見抜いてくださり、最後まで厳しく指導していただいたことも、モチベーションを保つことにつながりました。

青井教授 学生同士が切磋琢磨し、変にギスギスしないことも学習院の校風であり伝統ですね。また本法科大学院は、成績優秀者に対して経済的な負担を軽減させるための支援





河野 梨絵

金制度・特待生制度なども充実していますが、その点はいかがでしたか？

河野 私は実家が大方で、大学4年間に加えてということで学費もかなり負担でした。その点では、ロースクールの2年、3年次の2年間、授業料の半額免除をいただいたのはとても助かりました。

藤井 3年次に1年間の授業料半額免除をいただきました。この制度は、勉強面より努力をするためのひとつのモチベーション、目標になるという良い効果もあります。私は3年次での免除取得を目標に、2年次にかなり勉強量

を増やしましたので、経済+学力の双方に有益な効果がある制度だと実感しています。

青井教授 最後に皆さんの今後の目標などを聞かせてください。

河野 弁護士として、どんな分野で専門性を高めていきたいのかを今はまだ模索している段階ですので、早く自分の目標を見つける、ということが目下の目標です。

福嶋 「人助けがしたい」という思いから弁護士をめざしてきましたので、いわゆる町弁として一つでも多くの紛争を解決し、一般の方に安心感を与えられる弁護士になれたらと思います。また、「弁護士に相談する」ということは、未だに一般の方に敷居の高さを感じさせているところがあると思います。この点も改善し、「気軽に相談できる弁護士」を実現することも目標のひとつです。

藤井 今は企業法務に関心があり、その分野をめざそうかなと考えています。将来的には、幅広くいろいろな分野に精通した弁護士になることが目標です。

青田 福嶋さんと同じように、「人に寄り添える弁護士」が目標のひとつです。一方で、本法

科大学院に在学中に教えていただいた実務家の二人の先生、裁判官だった植村一郎先生と検察官の高橋理恵先生なのですが、お二人がとても素晴らしい先生だったのと同時に、それぞれの役職にも憧れを抱いてしまったのも事実で(苦笑)、これからの進路に関しては、検察官や裁判官も含め、今真剣に検討しているところです。

青井教授 皆さん、今日はどうもありがとうございました。皆さんの今後のご活躍を、教職員一同、楽しみにしております。



福嶋 勇介

MEMBERS

司会進行

青井 未帆 教授(専門分野:憲法)

東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得満期退学(修士(法学))。2003年7月信州大学経済学部専任講師。2006年4月信州大学経済学部助教授(2007年より准教授)。2009年4月成城大学法学部准教授。2011年4月学習院大学法科大学院教授(現在に至る)。日本公法学会、全国憲法研究会、憲法理論研究会に所属。



福嶋 勇介

明治大学法学部法律学科出身。
2014年学習院大学法科大学院修了(法学既修者コース)。
2016年司法試験合格。

藤井 真沙美

学習院大学法学部法学科出身。
2014年学習院大学法科大学院修了(法学既修者コース)。
2016年司法試験合格。

河野 梨絵

日本大学法学部政治経済学科出身。
2015年学習院大学法科大学院修了(法学未修者コース)。
2016年司法試験合格。

青田 直洋

東京工科大学メディア学部出身。
2015年学習院大学法科大学院修了(法学既修者コース)。
2016年司法試験合格。